



ウイトラレポート 2008 年 5 月号

「 IMT-Advanced の動向 」

はじめに

現在、世界的には 3G (WCDMA) 技術がやっと本格的普及を見せる段階になっているが、技術開発の局面では CDMA の次の技術である OFDMA を用いたシステム開発が追い込みの段階である。3GPP では LTE (Long Term Evolution) と呼ばれているこの次世代のシステムは現在仕様書作成の詰めを行っている。ドコモや Verizon Wireless など早期導入を計画しているオペレータは既にトライアルシステムの構築と実験に取り掛かっており、ビジネスの世界でも売り込み合戦が活発化している。3GPP2 では UMB と呼ばれるシステムを開発している。これらのシステムは 3.9 世代システムと呼ばれ、第 3 世代システムである IMT2000 の改良版と位置付けられている。

更に、政府間で通信技術を協議する ITU では第 4 世代システムに相当する IMT-Advanced の導入時期などの競技が始まっており、昨年の世界主管庁会議で世界共通周波数が合意されたほか、ITU-R での提案募集と審査、認定スケジュールも決まってきている。3GPP でもこの IMT-Advanced に関する取り組みを本格化させた。

今月はこの IMT-Advanced に関する周波数割り当て動向や、各社の技術開発に関する提案内容などを分析する。